

漁業後継者育成研修事業

小笠原 大郎・小倉 大二郎

目 的

漁業者の減少と高齢化が進行し、漁業後継者が不足していることから、本県水産業の維持・発展を図るため、短期研修（通称「賓陽塾」）を実施し、優れた漁業者を確保・育成する。

研 修 結 果

1 通常研修

漁業に就業して間もない人、漁業への就業を希望している人を対象に、基礎的な漁業技術・知識習得のため実施した。

- (1)研修期間 平成 23 年 5 月 31 日～同年 7 月 29 日(休日を除く計 43 日間)
- (2)受講生 毎日受講する研修生 11 名、希望科目のみ受講する聴講生 10 名の計 21 名であった。
研修生の出身内訳は平内町 7 名、野辺地町 1 名、六ヶ所村 2 名、外ヶ浜町 1 名であった。
聴講生の出身地は平内町であった。
- (3)修了生 全開講日数の半分以上を出席した者に修了証書を授与した。
修了生は 7 名で出身地は平内町 4 名、野辺地町 1 名、六ヶ所村 2 名であった。
- (4)研修内容 講義は研修棟学習室で、実習は陸奥湾海上及び工作室で実施した。
 - ・講 義 水産に関する基礎知識、漁業関係法令・制度、水難救助など(表 1)
 - ・実 習 沿岸漁業(さし網、簗、釣り)、ロープワーク、漁具補修(表 2)
 - ・視察研修 水産関連施設及び水産試験研究機関(表 3)

2 選択研修

漁業への就業に必要な資格の取得、技術等のレベルアップのため、一級・二級小型船舶操縦士、潜水士(外部講習)の資格取得講習を実施した。なお、第三級海上特殊無線技士養成講習及び現地漁業実習は、受講希望者がいないことから、実施しなかった(表4)。

3 出前講座

通常研修を受講することが困難な、遠方(三八、下北、日本海地区)の漁業者を対象に、漁業技術のレベルアップのため、ロープワーク等の現地講習を実施した(表5)。

表 1 講義

月 日	内 容		講師	
	午前(※)	午後	所 属	氏 名
6月1日	方位について	水産総合研究所の概要	水産総合研究所	伊藤企画経営監
6月7日		ほたて貝天然採苗技術について	〃	吉田ほたて貝部長
6月13日		貝毒について	〃	高坂主任研究員
6月16日			〃	小笠原技師
6月20日		漁業制度の概要、栽培漁業・資源管理について	水産振興課	對馬GM、二本GM
6月27日	方位・コンパス・操船について	陸奥湾の海況について	水産総合研究所	田中主任研究員
6月28日		海図の知識	〃	小笠原技師
6月30日		運航一般	〃	〃
7月4日	運航一般	ホタテガイについて	〃	東野研究員
7月5日		海上航行のルール	〃	小笠原技師
7月11日		漁業士会の活動等について	東青漁業士会	野坂副会長
7月22日	海図の使い方		水産総合研究所	小笠原技師
7月28日		海難事故防止について	青森海上保安部	青森海上保安部職員

表 2 実習

期 間	内 容		
	ロープワーク	漁業	船舶運航・その他
6月1日～6月30日	基本的な結び方、石からめ、三編み 各種ロープ(三撚り、クロス)のさつま加工	簀、さし網 漁具製作	操船
7月1日～7月28日	各種ロープ(サザンクロス、ワイヤー)のさつま加工 網補修、結索標本製作	簀、さし網 釣り、漁具製作	操船

表 3 視察研修

月 日	視察先
6月10日	公益社団法人青森県栽培漁業振興協会、試験船「開運丸」、八食センター
6月24日	鯡ヶ沢町アユ・イトウ養殖場、海の駅『わんど』、試験船「青鵬丸」

表 4 資格取得講習

資格	開講期間	開催場所	受講者数	合格者数	備考
一級・二級小型船舶操縦士	8月23日～8月27日	水産総合研究所	一級 5 二級 7	一級 5 二級 7	「賓陽塾」研修生以外の受講者：5名
潜水士(※)	9月7日～9月10日	青い森アリーナ	1	1	「賓陽塾」研修生以外の受講者：13名 試験日及び会場：9月12日、青森大学

※外部講習。

表 5 出前講座

月 日	開催場所	受講者数	受講者の所属	講座内容
10月30日	東通村体育館駐車場	6	東通村漁業連合研究会	基本的な結び方、飾り結び
1月23日	野辺地町漁業協同組合	17	野辺地町漁業協同組合	ワイヤーロープさつま加工
2月10日	旭町ふれあい館(東北町)	19	小川原湖漁業協同組合	石・玉からめ、基本的な結び方

通常研修実施状況



講義（水産総合研究所の概要）



網補修



さし網漁業実習



視察
（公益社団法人青森県栽培漁業振興協会）

選択研修実施状況



小型船舶操縦士資格取得講習（学科）



小型船舶操縦士資格取得講習（実技）